

第三の拠点に したかかった都市

渡辺仁史



think the future from hitoshi watanabe lab.

●思ったほど寒くないバンクーバー

● バンクーバーは、トロントやモントリオールに続くカナダ第3の都市であり、樺太と同じ緯度に位置しながらも、太平洋の暖流と山々に囲まれた地形から最も温暖な気候で知られています。

● 私はブリティッシュ・コロンビア州にあるバンクーバーのUBC (University of British Columbia) の建築学部で、1984年5月から8月までの一年3ヶ月を客員教授として過ごしました。この期間、世界中の論文を調査し、唯一群衆行動の研究を行っていたUBCのシートン先生のもとで、海外における研究動向を探ることが目的でした。実際には、極端な人間の密集場面は海外ではまれで、むしろ日本でこそ研究が必要だと感じました。帰国後、自国での群衆調査事例を増やし、火災時の避難行動の必要性を強く意識することになりました。

● バンクーバー滞在中の最も大きな収穫は、カナダの丹下健三と私が尊敬する建築家であるアーサー・エリクソンとの出会いです。彼の作品における北国での光と影の扱い、そして木材や金属との調和に感銘を受けました。2度ほどエリクソンのオフィスに招待された際、その環境

にも魅了されました。室内にも外の環境の変化を巧みに取り入れるデザインの素晴らしい感覚は、帰国後に建設省の公共オフィスのデザイン検討委員会の主査が私が務める際に生かされました。

● さらに、1996年に実施された国立国会図書館西館（グッドデザイン賞）のコンペの専門審査委員として私が出た時に、海外の建築家としてエリクソンを審査委員に推薦し、数年ぶりに再会して一緒に仕事ができただことは、何よりの大きな思い出となりました。

● こうして一年3ヶ月のバンクーバー滞在は、その後の私の人間と自然が共生する生活の中で貴重な経験となりました。今では東京と石垣島との「二拠点居住」と言っていますが、実は「三拠点居住」が私の夢でした。冬でも雪が積もらず、車で15分走ればグラウスマウンテンでスキーができるような場所で、しかも北部で最も黒人人口が少なく安全で、しかも日本人はとて多くて豊かな暮らしを楽しめるバンクーバーは、理想的な拠点だと感じます。いずれ本気でこの場所に拠点を置こうかと、考えることもあります。

News Paper

第17号

2024.04.01



1983年5月、バンクーバーのダウンタウンに借りた新築のアパートの一室で、腎臓結石のため1ヶ月遅れて到着する久美子さんを待つ日々